

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げているわけではないが、地域との関係や継続を大切にしていけるサービスは行っている。	○ 今後、地域密着型サービスとしての理念を作り、職員全員に浸透し、入居者の生活を充実していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしい生活を送っていただく為、ミーティングで具体的なケアについて、統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族については理解していただくよう取り組んでいるが、地域の人々への理念の浸透をすすめているところです。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員も半数以上は町内より採用し、地区民とも気軽に話し、隣近所の方には夕涼み会、防災訓練にも参加を呼びかけている。地区の方より、野菜を頂いたり、草取り等、気軽に立ち寄ってもらっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の老人会、自治会、地域活動への参加はしていないが、地区の行事（運動会、盆踊り、祭り）には参加しており、雨で参加できない時は、婦人会の方がホームに来られ踊っていただいた。	○ 昨年、区民として出来る事は協力していきたいと区長さんをお願いしてみますが、検討してみますという事で、返事をもらっていないが、前向きにホームで出来る活動を探し、取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者などの暮らしに役立つことがないかの話し合い、取り組みもされてないが、地域の方より認知症の方の相談を受けたりした時には、症状・対応等について話をしたり、個人的には行う。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、地域に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	個々が評価し、評価をまとめた。評価をする事で自分自身が行ってきた事を見直し、改善すべき事が見えてきた。外部評価の結果を運営者にも報告し改善に向けた努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所サービスを報告し、評価、助言、要望をいただき、そこでの意見をサービス向上へ活かしている。地区の消防団の方に運営推進委員をお願いして、近隣の方も協力し、防災の面で協力してもらい、ホーム内や現状を報告し意見をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進委員である福祉保健課長や他の職員と、入・退所に対しての家族、ホームとの調整などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度」及び「地域福祉権利譲渡事業」関わるリーフットを玄関に掲示している。管理者が研修会に参加し伝達したり、職員も勉強会で学ぶ機会を持つ。現在、後見人制度を利用されている方もおり、活用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会は実施していない。身体的虐待はないが言葉とか、今後詳しい内容を知る機会を持つ必要がある。	○	入所者を身近に感じ何気なくかけている地域独特の言葉も、個々の利用者がどう思っているかも見直していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っている。利用料金、ホームの内容を理解していただけるように努め、医療面については説明し同意を得るようにしている。又、面会時等にも家族の言葉に耳を傾けて、不安や疑問点を聞けるように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察し、ミーティングで話し合い、その思いを職員全員が察するよう努めている。	○ 入居者と個人的には話をし、悩み・不満を聞くことはあるが、意見や行きたい所など入居者と職員の会合を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回請求書を送付する時に管理者が1ヶ月の利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、健康状態については変化があった場合、随時電話にて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口を文章で明示している。運営推進会議で御家族にも参加していただき、意見を言ってもらえる様努め、運営にも反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を月1回行い、意見を聞くようにしている。コミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりしている。	○ 何でも言える場として更に充実を図りたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診、その時の状況に応じて職員の配置を考えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在異動はないが、その際には新しい職員を入居者に紹介し、仕事の内容を把握していただき、違和感のないケアが出来るようにしたい。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて勉強会、研修会に受講できるよう計画を立てている。ケア会議時に研修報告をしている。年に2・3回は研修参加。	○	研修する場が多くなるよう心がけていきたい。職員が資格取得を目指している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所と管理者会を月1回勉強会を開催して、サービスの向上を目指している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同グループの職員で1回食事会（弁当）を行う。他は全体で行う忘年会のみで、ストレスを軽減するための工夫や環境作りは乏しい。	○	他のグループホーム職員との交流、スポーツ大会等に参加する事等、調整をしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。理事長自身もケアする立場で入居者に接している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談があった時、家族より入居の理由や精神、身体状態、生活状態を把握する。相手の表情や状態に配慮しながら、相手の言葉に耳を傾け、受ける側も態度や言葉に気をつけながら受けとめるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前、入所時に事業所を見学してもらい、又、本人や家族が困っている事、不安な事、求めている事を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、入所時に本人や家族の思いを見極め、他に色んなサービスがある事等をお知らせし、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	町内以外の方の入所時には、環境も人間関係も初めてのことばかりで、ストレスも溜まるので、ご本人の身近な方の面会や現況をお知らせして、ご本人が少しでも安心して生活してもらえるよう、家族との連携もとっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器の洗いや、野菜の洗い方により水を大事に使用している事、見習うことも多い。夜勤帯でトイレ介助に訪室すると、「貴方達の仕事も大変だね。体には気をつけなよ。」と、利用者の言葉に支えられる事もある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症が進んでいく事を悩んでいる家族の話を聞き、本人の気持ちを大切にし、今を大事に過ごしてもらいたいと思っていることを伝える。出来ないかもしれないと思った時等、家族に報告し一緒に喜ぶ事もあります。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「自宅に帰りたい」「帰りたい気持ちは大切にしたいけど、悪くなったり、介護に不安がある」とお互いの思いがある。直前に病院受診したり、機能の維持に努め支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の利用者は近くのお店等に行き、知り合いの方と話をしたり、遠くから来られている利用者に対しては御家族の協力も得、馴染みの人の面会や、昔から利用している美容室に家族と出かけ、散髪してもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	余暇の時間を気の合う利用者同士でおしゃべりしたり、洗濯物たたみをしている。帰宅願望がある人に対し、「もう暗くなったから明日がいいわ」と、同じ訴えをしていた人が話される。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方が殆ど母体の病院に入院されており、病院に行った時は面会し、家族に伝えたり、行事がある時等、御家族の方の参加を呼びかけ、参加される方もいます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛けたことへの反応（言葉、表情、態度）等から、その真意を推し測ったりする。意思疎通が困難な方には、家族に元気な時の暮らしぶりか情報を得たり、職員間での気付きを共有し本人を支えている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族より生活歴や馴染みの暮らしを聞き、入居されても家族の面会時や、本人が若い時の話しをされたときに聞くこともある。家族が近くにいない時は在宅の支援専門員に話を聞くこともある。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者1人1人の生活リズムを把握している。働きかけで出来ないと思っている事も出来るようになる。味見をしたり、出来ると思われることも試みて可能性を引き出すようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の意向がつかめない方は色々な角度から見て何が必要かを検討する。御家族の方には面会時や電話で意向を伺い作成している。ミーティング、申し送り、カンファレンス時に本人、家族の思いや要望を伝えカンファレンスを行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録する個別記録表で、介護計画の遂行状況等を知り、月1回の会議の中でカンファレンスを行い見直しをしている。入院などにより状態に変化が生じた場合は、必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成する。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づき等を個別記録に記入している。職員間で共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院はホームが行っており、必要な時には家族の協力をお願いすることもある。入院した場合報告し、退院に向けての情報も共有している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の民生委員お方に第三者委員、運営推進委員をお願いし、ホームの運営に関わってもらっています。地区の消防団も運営推進委員であり、防災訓練参加や社協へボランティアの要請をし、窓拭きのボランティア、地区民の方から庭掃除もしていただいている。	○	運営推進委員に地区の民生委員、消防団、包括支援センターの職員も入れており、相談事など気軽にのっていただいている。今後少しずついろんな行事に参加させていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所の支援は受けていないが、地区内の美容室の方に来ていただき、散髪を行ってもらう。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度を希望される利用者に対し、地域包括支援センターの職員と協働し、活用している。運営推進委員でもあり、ホームの実情も理解されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。通院はホームがサービスで行っているが、家族にかかりつけ医より説明がある時は付き添っていただいている。定期以外に受診する時は家族に受診結果を報告している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が精神科医のため、相談可能であり、指示・助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員も配置している。かかりつけ医である近くの病院の看護師とも連絡を密にし入居者の方の理解をされている。状態変化に応じた支援が行える体制である。ホームの看護師とも密に話し合い協力している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供書を医療機関に提供し、他の入居者受診時に様子を見に行き個別記録表に記入している。管理者は家族、医師との情報交換に努めた退院の見通しについて話し合い、ホームの受け入れ態勢を作っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については入所時に同意書を得てホームの方針も伝えている。運営推進会議でも家族、地域、行政の方とも話しを行う。参加できなかった家族には出来る事、出来ない事を資料をつけ送付する。	○	全員との家族、本人、かかりつけ医と繰り返し話し合っていないので、話し合いの場をもてるようにしていきたい。又、看取り介護の研修に2名受講しているが、他の職員も受講し、職員のスキルアップにつなげる。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期の利用者は家族、委託医と連絡を取りホームで出来る事、出来ない事を見極め相談している。家族の協力をお願いしている。	○	今後の変化に備えての検討や準備については行っていないので文章化したり、かかりつけ医との連携を深めていく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の希望（入所時に近い所）があり、同系列のグループホームに入所される。家族間の調整など行い、移られた時は生活全般に関わる情報を提供しています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴拒否がある方に対しては好きな歌と一緒に歌い誘導したり、入浴場所に来て「あら、風呂が沸いているんだな、誰も入らないでもったいないなあ」と言われた時に入浴を勧めている。自分から入りたいと思えるように、ご本人が誇りを失わないような対応ができています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	まず、行動を起こす前に本人の意思を確かめるようにしている。意思表示が困難な方には、表情や態度で判断している。あくまでも本人の意思を確かめながら支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員数もあり業務に合わせてもらうことも多い。しかし、買い物や中庭の散歩、近くの理容所等、本人の思いに配慮して外出など柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、入浴後には職員が行う場合もあるが、洗面所前で整容の声かけを行っている。近くの理容所に顔剃りや、希望の理容室に行きカット、髪染めを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔やっていた季節の仕事、しそ洗い、大根切り、しぶ柿むき等を一緒に行い、食材として使用する時は、その場面の話を出し、一緒に食事を囲んだり味見をして感想をいただいている。食後の片付けも一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近くの店に買い物に行き自分で管理できる方は自室で管理をしている。お酒類は家族が持参したり、好む物を買ってきたりしている。おやつも、咀嚼力、嚥下力によりかえている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を活用し日中は布パンツ+パットで本人が発した言葉や行動、時間を見ながらトイレ誘導している。痒みのある人はパットをしている時間帯が出来るだけ少ないよう配慮している。	○	安易にオムツは使用せず、トイレで排泄できるよう、夜間も無理のない程度に誘導している。状態に応じて今後も自分で排泄ができるように誘導を継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は木曜日以外は毎日行っており、木曜日が必要な方は入れています。入浴場所に入る時は確認をして入ります。本人の希望で入らない時や、お湯の温度の希望にも対応し調整している。時間は13時～16時。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の状態、夜勤対の睡眠状態を把握しながら、声かけ、畳の部屋、居室、ホールの椅子等、本人の希望の所で休息している。自分で居室より枕を持って来られ、畳の部屋で休まれたり、職員が用意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割があり、声かけで行っていた事が少しずつ自主的に行えるようになっていく。仕事をしてなかったり、した後に「何か仕事はないとね」「もうないね」との話しかけがある。台所より中庭に出て、椅子に座り景色を眺めたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1000円ぐらい手元に持ち、買い物に行かれお菓子を購入される方2名います。他に、パン屋さんが来た時、購入時に手渡し、パン代を自分で支払っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の希望を聞きながら年に1回程自宅に帰られる方や、本人が家族に電話し自宅に外泊することもある。ホームで迎えに行ったり、自宅へ一緒に行くこともある。なかなか行けない方に対しては中庭への散歩等を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1回、家族と他利用者と共に出かけられる機会を作り支援している。個別的には生家、自宅に帰りたい希望があるが、家族の意向、本人の状態でできない事もある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は自由に電話をしたり、自分でかけられない方には、職員がとりついでいる。家族への手紙を書けない人は内容を聞き代筆したり、家族からホームにきた手紙を本人に読んでもらい、話した言葉を家族に伝えている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は定めておらず、家族、本人の希望でホールや居室で過ごしてもらっています。本人の写真を見ていただき、必要な写真は持って帰ってもらっています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束があってはならないと全職員が認識している。身体拘束は行われていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。夕食後、職員が1人になる時は利用者が外に出て、歩行状態等を見て、危険と思われた時は鍵をかけることはあるが、危険が回避できたら鍵ははずしてある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の状況を把握するように努め、屋外に出る時は他の職員に引き継いでから離れるようにしている。夜間は日中の様子を申し送り、気になる方への巡視はこまめに行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	決められた場所に保管し、裁縫道具を持ってらっしゃる方もいるが、あまり使用されていないので制限せず、カミソリ等、本人希望時に預かっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	関連施設で勉強会を持ち、代表者が参加して定例会議の時に報告している。誤嚥を起こしやすい入居者については食事形態、飲み込みの確認を行っている。	○	事故が発生した場合は家族、嘱託医に報告して、事故報告書を作成し、事故の原因や状況を話し合い、再発防止に努め、今後も研鑽を積んでいきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	関連施設合同で消防署の協力を得て、心肺蘇生の研修を実施し参加している。個人的に心肺蘇生の研修に行った時は定例会議で伝達している。	○	初期対応は勉強したが、毎月定期的に行っていないので、定期的に確認・訓練していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災計画表を作成して年2回避難訓練を行っている。近くの住民、消防団とも合同で訓練をした事により、連携がスムーズになった。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	運営推進委員会で事故、ヒヤリハットの話を話しリスクに対しての説明を行う。家族にもその時の状況を説明し、本人の状況を見守り対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、起床前のバイタルチェックや普段と違った様子が見られたら、その様子を伝達し、様子を記録している。異変に気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診した際は医療記録に処方箋をとじておき、いつでもチェックできるようにしている。薬の処方に変化あった時は、申し送りノートに記録し職員全員で共有している。服薬後、血圧の変動や表情など、変化の確認を行い報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜、ココア牛乳を毎日取り入れ、水分の摂取量が少ない時や、排泄量が少ない時は本人の好きな飲み物をすすめたり、自分から歩かない方には遠くのトイレに誘導したり、体を動かす様に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きやうがいの声かけを行い、準備したり、見守り、順序の説明をし、出来るだけ自分で行っていただく。出来ない方は介助したり、うがいが出る時は行ってもらう。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況を毎日チェックし記録している。嚥下状態に変化がある時は、食事状態を変更したり、好物をお出しして食べれるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、職員にインフルエンザの予防接種を受けている。ノロウイルス対策を考慮してペーパータオルを使用し予防を行っている。事務所に感染症マニュアルを掲示している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は調理担当者が調理を終えてから漂白し、まな板は日光消毒も行う。調理器具流し台等は毎日洗剤を使って洗い、清潔にしている。食材は新鮮で安全な物を選んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	段差をなくし外門まで手すりがついている。玄関はインターホンを設置、日中は施錠していない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関等に紙で季節感のある飾りや絵が貼ってある。天窓があり自然の光が入り和らいだ雰囲気がある。ホールには季節の花を活けたり、中庭の木々や草花で、季節感を感じていただける。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の部屋で休まれたり、洗濯物をたたまれたり、新聞を読まれたりしている。寒い日には日の当たる場所で日向ぼっこ、中庭で椅子に座り景色を楽しまれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持参していただくよう本人、家族にお願いしている。運びが容易な生活用品が家族の希望で持ち込まれることもあるが、本人が使用している服等を居室にかけたりの工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には出来るだけ外気が入るよう窓を開けたり、カーテン等で中の温度を調整している。外気温と大きな差がないよう、利用者の状況を見ながら調整している。トイレは換気扇と消臭器を使用し、匂いに対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の移動には手すりが設置しており、歩行状態により利用されている。洗濯物干しは室内でも出来る。腰の痛みを訴える人には椅子に座って出来るよう物干し台の高さの調節ができています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ戸にトイレが分かるように目印や大きな字で書いてある。夜間は電灯を点けたり、身体機能面や認知の面を考慮して同じ場所に誘導したり、トイレに近い居室を提供している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で椅子に座り日光浴、ボール遊びをしたり、季節感のある木々を眺めることができる。建物の周りは砂利道、段差があり歩行不安定な方や精神不安定な方には見守り、付き添いが必要です。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

山に囲まれ季節感ある風景が目の前にあり、少しずつですが地域の方の訪問もあり、ホーム内の庭の手入れ、窓拭き等、地区の方がボランティアで環境を整えてくださいます。昔とった杵柄の得意なことを一緒にしたり、その人らしい性格が出せるよう、その方を知り、その方の立場でものを考え、挨拶と笑顔を忘れないように取り組んでいます。私達はその人らしい生活が送れるよう、研修に参加し質の向上を目指します。